

## CONTENTS

### TOPICS

- 1 2019年度 名古屋工業大学ダイバーシティ推進中間報告シンポジウム『STEM分野のダイバーシティ推進が拓く未来』
- 2 名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」第4回年次交流会
- 3 ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾
- 4 小牧市主催『キッズラボわくわく大作戦』
- 5 NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 第1回英語論文セミナー

6 NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第1回研究力向上セミナー『外部資金の獲得に向けて』

7 NITech CAN 夏季学童保育イベント キッズプログラム

REPORT 『女性が拓く工学の未来賞』受賞者の声

COLUMN ワーク・ライフ・アンバランス

## TOPIC 1 2019年度 名古屋工業大学ダイバーシティ推進中間報告シンポジウム「STEM分野のダイバーシティ推進が拓く未来」

2019年9月25日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム「STEM分野のダイバーシティ推進が拓く未来」を開催しました。シンポジウム前半では、文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」における本学の事業中間報告を行った後、由良憲二電気通信大学副学長より、外部評価委員会による事業評価結果が報告されました。

後半は、二人の講師による講演会を行いました。最初に、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST) プログラム主管の山村康子氏が「ダイバーシティ・マネジメントへ」と題して、米国の女性研究者支援の歴史と、日本企業、各省庁のダイバーシティ施策についてお話しされました。次に、日本アイ・ビー・エム株式会社執行役員我妻三佳氏が登壇し、「誰もが活躍できる社会のためにー STEM分野のダイバーシティ推進ー」として、人材が多様化する中で障害となりうる「無意識の偏見」について、自身の経験談も交えながらご講演されました。

教職員70名が参加し、本学ダイバーシティ推進のあり方を見直す有意義な機会となりました。



## TOPIC 2 名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」第4回年次交流会

2019年10月26日、名古屋工業大学女性同窓会「鶴桜会」第4回年次交流会を開催しました。

鶴桜会は「年に一回会いましょう」を合い言葉に、OGや現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場として2016年に創設されました。本年も本学ホームカミングデーと同日に昼食交流会を開催し、OGや現役女子学生のほか、学長、名古屋工業会理事長はじめ関係者38名が参加しました。華やかな雰囲気での歓談の後、武田はやみ特任准教授によるミニ講演会と小グループに分かれての座談会が行われ、参加者同士が世代を超えて親睦を深めました。



# 名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

## TOPIC 3 ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾

2019年9月3日～11月1日、ダイバーシティ推進センター主催「第5期ものづくり企業のための女性技術者リーダー養成塾」を開催しました。本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、受講を通じて、女性技術者が自身のキャリア形成を主体的に計画する意識を持つこと、品質管理や組織運営のスキルを体系的に学び、現場での問題解決に役立つ技能を習得することを目的としています。

今期は、県内外より企業20社から20名の女性技術者が受講しました。9月から10月にかけての3日間にわたってキャリア・コンサルタントによるキャリアデザインのワークショップと品質管理・組織心理学の演習が実施された後、11月1日に卒業式と特別講演会が行われました。卒業式では壇上で塾長の藤岡学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）から修了証が授与され、一人一人がリーダーになるための行動宣言を述べました。特別講演会では、株式会社光機械製作所代表取締役社長の西岡慶子氏を講師に迎え、「経営に活かす女性の力」をテーマに、能力・適正・やる気を重視した人材配置と女性や外国人の積極登用についてお話しいただきました。

卒業式、特別講演会には、後援団体、参加企業から約65名が参加し、参加企業からは「女性リーダーだけでなく、すべてのリーダーにとって大切なものを学ぶことができた」という感想が多く寄せられました。



## TOPIC 4 小牧市主催 『キッズラボわくわく大作戦』

2019年11月10日、小牧市主催の第17回「男女共同参画フォーラムinこまき」において、本学女子学生団体「彩綾～SAYA～」による工作と科学実験のイベント「キッズラボわくわく大作戦」を開催しました。

前半は工作編として「ホログラム万華鏡」、後半は科学実験編として「人エイクラ」を作りました。小学校低学年の参加が多く、子どもたちは目を輝かせながら楽しんで取り組んでいました。



## TOPIC 5 NITech CAN 工学女子キャリア形成塾 第1回英語論文セミナー

2019年8月9日、工学女子キャリア形成塾・第1回英語論文セミナーを開催しました。発生物理学を専門とするデイ・ティモシー氏を講師にお迎えし、研究成果をよりわかりやすく表現するための方法についてお話しいただきました。本学の研究者が冒しやすい文法エラーを踏まえての講義となり、受講者は、時制の考え方、冠詞の使い方などについて、研究方法や成果を示す際の具体的な注意点を学ぶことができました。

学生と教員、合計11名が受講し、受講者の現状を把握した講義内容が好評を博しました。



## TOPIC 6 NITech CAN 女性研究リーダー養成塾 第1回研究力向上セミナー 『外部資金の獲得に向けて』

2019年8月7日、女性研究リーダー養成塾・第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」を開催しました。産学官金連携機構URA沖原理沙氏より、自分が思い描いた研究計画に戦略的に外部資金を組み入れる方法と、このプロセスにおける産学官金連携機構の支援についてお話しいただきました。同機構科学技術コーディネーターの佐藤紀夫特任教授からは、外部資金の基本知識と申請書の書き方について、科学研究費補助金の申請書を例とし、アピールポイントの示し方や研究のコンセプトの明確な伝え方についての注意点が示されました。参加者から「普段研究をしている中では気づけない視点を得られた」などの感想が寄せられました。



## TOPIC 7 NITech CAN 夏季学童保育イベント キッズプログラム

2019年7月30日と8月6日の2日間、NITech CAN キッズプログラムを開催し、小学生のべ38名が参加しました。7月30日の午前中は、名古屋で活動する建築系学生団体「758でまえワークショップパース」の協力を得て、ドームと町づくりに挑戦しました。午後は情報工学専攻 打矢隆弘准教授、大塚孝信准教授の協力を得て「プログラミング教室：めいろであそぼう!」を行いました。世界初の迷路作成キット「A MAZEING!! MAKER」を使い、子どもたちはスイッチブロックや電子基板を組み込み、各々の考えた独自の迷路を組み立てていました。

2日目の8月6日は英語リトミックから始まり、歌に合わせてダンス、動物のものまね、ボールを使ったゲームなど、全身を使って元気いっぱい楽しみました。午後の工作ワークショップでは、画用紙で家や建物を立体的に作り、窓や模様を描き折り紙の飾りをつけた各々の作品を組み合わせて町を作りました。夕方には、半田空の科学館ふくろうの会の先生を講師にお迎えし、「星のおはなし会」を行い、子どもたちは星座にまつわるギリシャ神話に静かに聴き入っていました。



## REPORT 「女性が拓く工学の未来賞」受賞者の声

ダイバーシティ推進中間報告シンポジウムの冒頭で、2019年度「女性が拓く工学の未来賞」授賞式が行われました。この賞は若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これによりダイバーシティの推進に資することを目的するものです。

本年度は、優秀賞を宮川鈴衣奈助教（物理工学専攻）、奨励賞を細島頌子研究員（生命・応用化学専攻）が受賞し、表彰状とトロフィー、副賞が授与されました。

### 優秀賞



宮川 鈴衣奈 助教  
(物理工学専攻)

光栄な賞をいただきまして、誠にありがとうございます。

本学に着任して8年目になりますが、恵まれた環境で研究、教育に取り組めていることに感謝しております。これまでに女性研究者・教員など、女性だからいただいた機会もあり、多くの経験をさせていただいていると感じております。同時に、私自身は工学分野の選択にあたり女性であることを意識したことはありませんでしたので、戸惑いもあり、また女性という立場に頼り過ぎないようにもがいてきたところもございました。同じ女性研究者でも、分野や年代により感じていることや置かれる立場も様々であります。環境や時代の流れに左右されないような研究力と人間力を身に付け、未来の自分にワクワクできるような研究人生を送っていきたいと思っております。

### 奨励賞



細島 頌子 研究員  
(生命・応用化学専攻)

このような名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に思います。この度の受賞も、学会での研究成果の発表も、自身の日々の研鑽はもちろんです。共に研究に取り組むラボのメンバー、そして名古屋工業大学の皆様のサポートあってのことであり、感謝の念に堪えません。また同時に日々の努力が実を結び、未来賞の受賞に繋がったことは、自身を含め、研究グループ一同、非常に心を躍らせております。さて我々のグループは光に応答するタンパク質の研究を行っており、学術的な真理の探究は言うまでもなく、光を用いた生命現象の操作技術を医療や産業へと応用する道も模索しております。この光操作技術が、明るい未来の発展に貢献できますよう、より一層精進していく所存です。



電気・機械工学専攻 加藤正史先生の

ワーク・ライフ・アンバランス

Work Life

Unbalance



加藤 正史

1998年 名古屋工業大学卒  
2003年 同大学大学院修了 博士(工学)  
2003年 名古屋工業大学 助手  
2008年～現在 名古屋工業大学 准教授(その間リトアニア国  
ビリニュス大研究員、名古屋大学客員准教授 兼任)

## 第10回 行きたくない

### 毎朝の仕事

子育て世代が毎朝行う必要のある、本業の仕事よりもある意味タフな仕事は、子供を保育園・学童に連れていく、もしくは幼稚園・小学校に送り出すことです。毎日元気に行ってくれば何も問題はないのですが、ある頻度で、あるいは毎日のように行くのを嫌がる場合があります。子供は大人ほど精神的に落ち着いていませんし、他人との関わりのある空間では様々なことが起こりますので、避けようがない事態です。特に小学校の入学など環境が一気に変わると、行きたくないという気持ちが強くなるのも理解できます。ただし、毎日仕事をしている親の方は本当に困ります。子供が遅刻すれば親も遅刻ですし、子供が休めば親も休まないといけません。当然、遅刻も休暇も通常は取ることはできません(この義務感には日本人だからかもしれませんが)。

### 連れて行く方法

他の方がどのようにしているか気になって、「子供」「行きたくない」などのキーワードで、ウェブ検索をしてみるといろんな方法が出てきて、見事に対応がバラバラです。子供の数だけ対処法がある、というようなレベルです。他人の方法をそのまま使うのは無理があるようです。しかし、会話ができてかつ落ち着いている状態の子供なら、いろいろ説得のしようがあります。一方で、まだ言葉がよくわからない乳幼児や、行きたくない気持ちで興奮している子供の場合や仕事に迫っていて時間がない場合は力づくで連れて行くことになります。これには体力も精神力も要求されますが、仕事に行くにはそうしないわけにはいきません。あらゆる手段を講じて連れて行くor送り出します。結果として、自分が本業の職場に着く頃には体力・精神力を使い果たした状態になります。



### なぜこんな苦勞をするのか?

子供の嫌がることをして、疲弊した状態で(場合によっては)やりたくない仕事に出勤する。そして、子供が行きたくない理由も満足に聞き出す時間もない場合も存在するため、子供の成長にとっても不安が募ります。これには親も「なぜこんな苦勞をしているのか」という自己嫌悪になることもあるかと思えます。

結局のところ、苦勞してまで子供を送り出して仕事をする理由は、親が個人としてどう生きたいか、という問題に返ってくるように思います。言い換えれば、家族を巻き込んだ上で仕事をし、その先に得られる(かもしれない)充実感を欲するかどうか、でしょうか。もちろん仕事は生活費を稼ぐためにも必要ですが、親として自らが選択した結果の苦勞であることを再認識することが、苦勞を乗り越えるための力になってくれるのではないかと思います。そして、子供はそんな親の姿を見て育つことで、大人になった際のロールモデルの一つとするのではないのでしょうか。

**お知らせ** ダイバーシティ推進センターのHPのURLが変更になりました。

旧: <https://www.nitech.ac.jp/diversity/>

▶▶▶ 新: <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>

発行

2019年12月発行

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

E-MAIL | [diversity-crew@adm.nitech.ac.jp](mailto:diversity-crew@adm.nitech.ac.jp)

TEL | 052-735-5121, 052-735-5279

URL | <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>

文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」